

『現代日本人の相続観～相続に関する意識調査より～』

2021年6月
MUFG相続研究所

調査概要

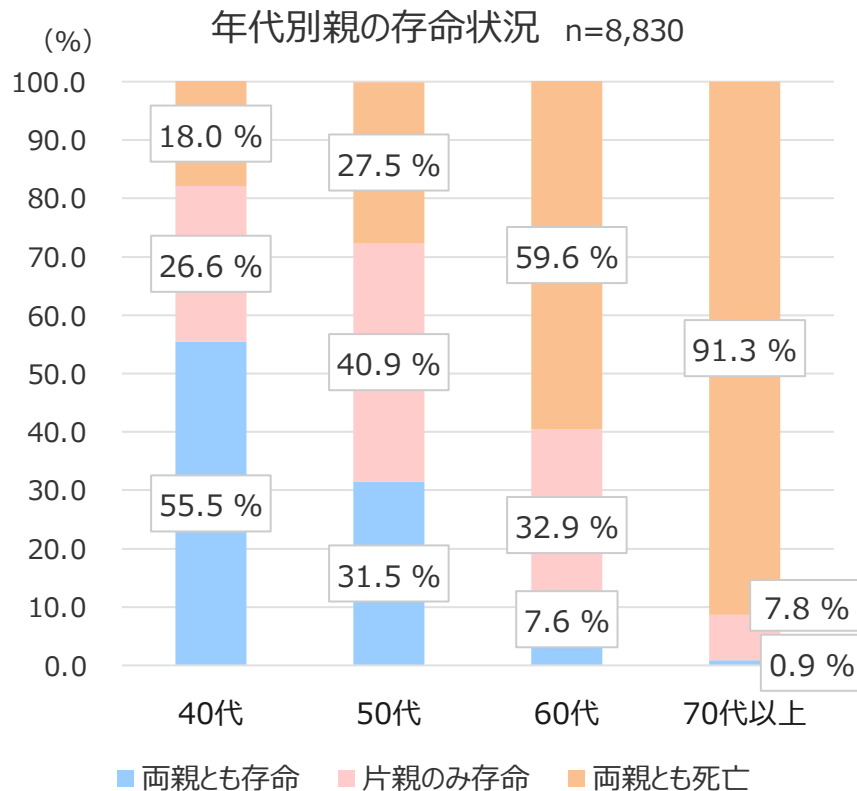
- ◆ 調査名 : 「日本人の相続に対する意識調査」
- ◆ 調査対象 : 40歳以上の男女
(相続経験の有無)
- ◆ 調査地域 : 全国
- ◆ 調査方法 : リサーチ会社を利用したWEBアンケート
- ◆ 調査時期 : 2021年3月1日(月)～3月3日(水)
- ◆ 有効回答者数 : 本調査5,159サンプル
(事前調査10,000)

1. 相続経験と相続手続きへの関与

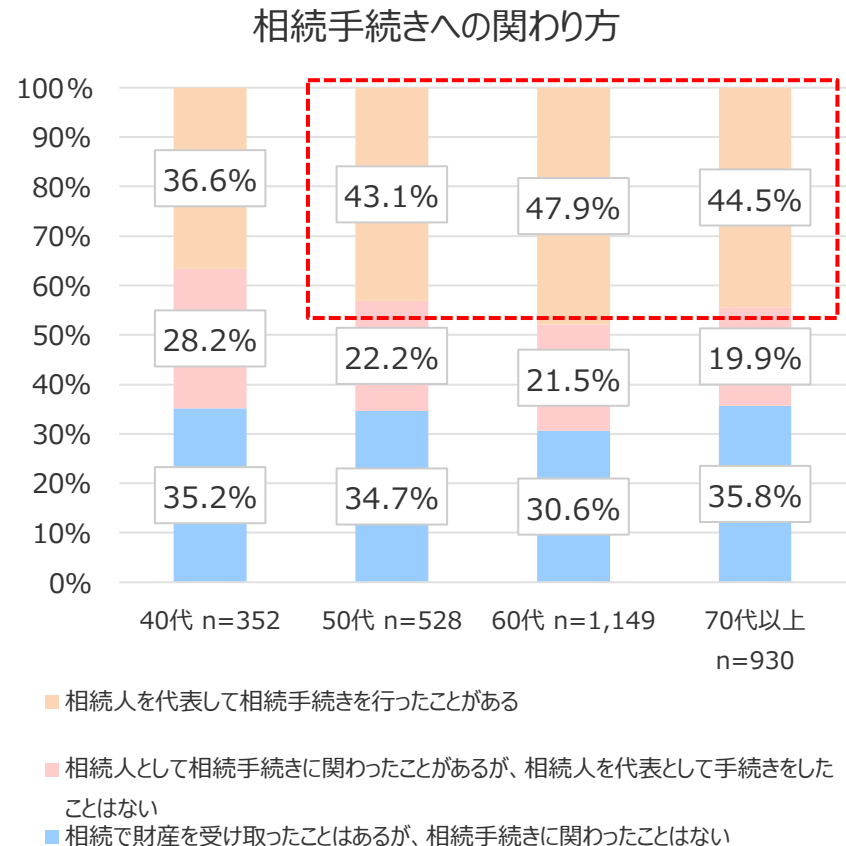
親の相続に関して、子が50代の場合、約7割が片親もしくは両親の相続を経験、同じく60代では、9割が経験している。

一方、相続手続きへのかかわり方は、50代以上の各世代で4割以上が相続人の代表者として手続きを行っている。逆に5割強は、積極的にには手続きに関わっていない。

年代別 親の存命状況



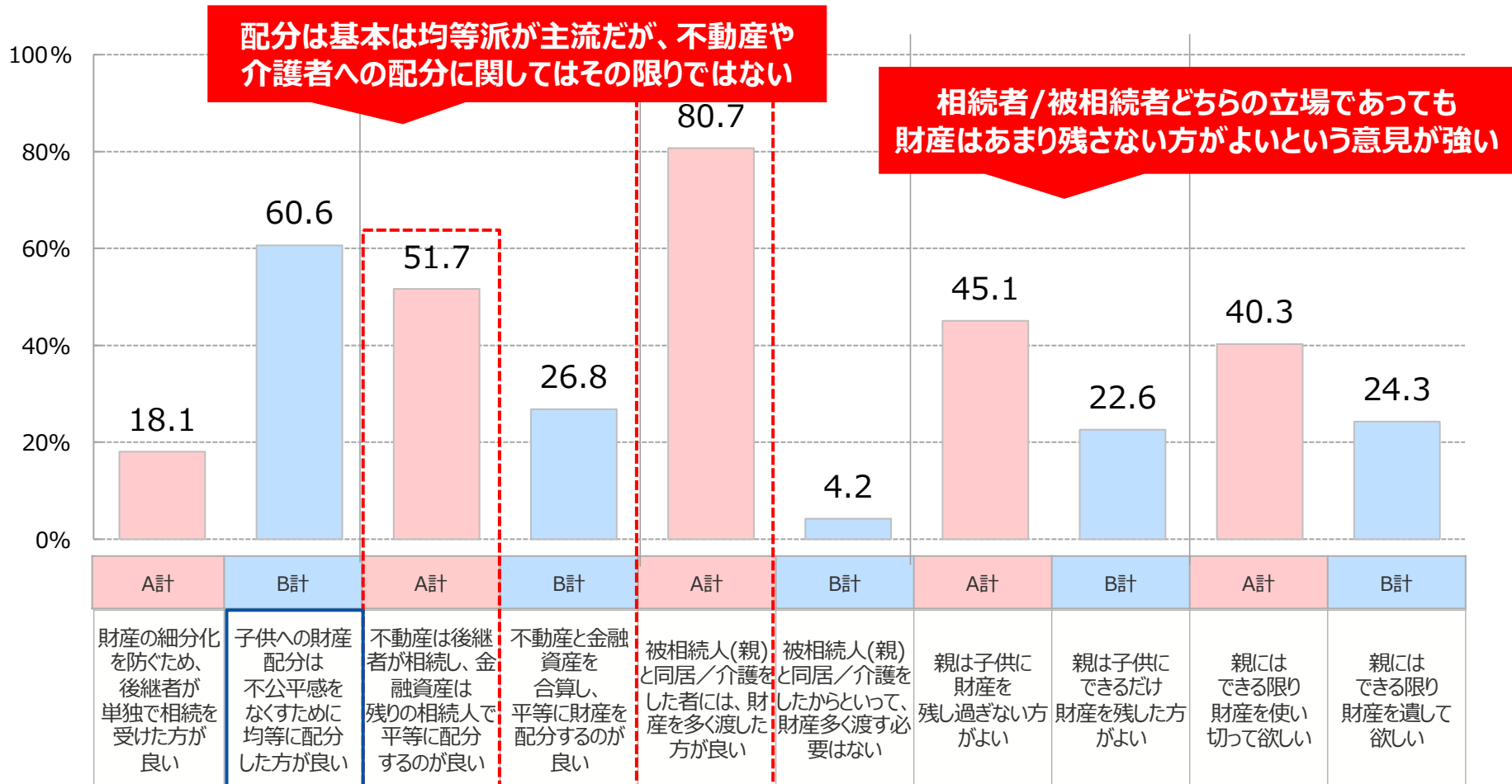
主体的な相続手続き実施状況（相続財産受取経験有）



2. 相続経験と相続への意識調査

相続意識をみると、子への財産は公平に均等配分の傾向が強いが、不動産は後継者、介護をした場合は介護者に多く遺した方が良いとの傾向も併せてある。また、子には財産を遺し過ぎない方が良い、という意見が親・子双方とも4割強となっている。

相続に対する意識



財産を受け取る立場からの考察

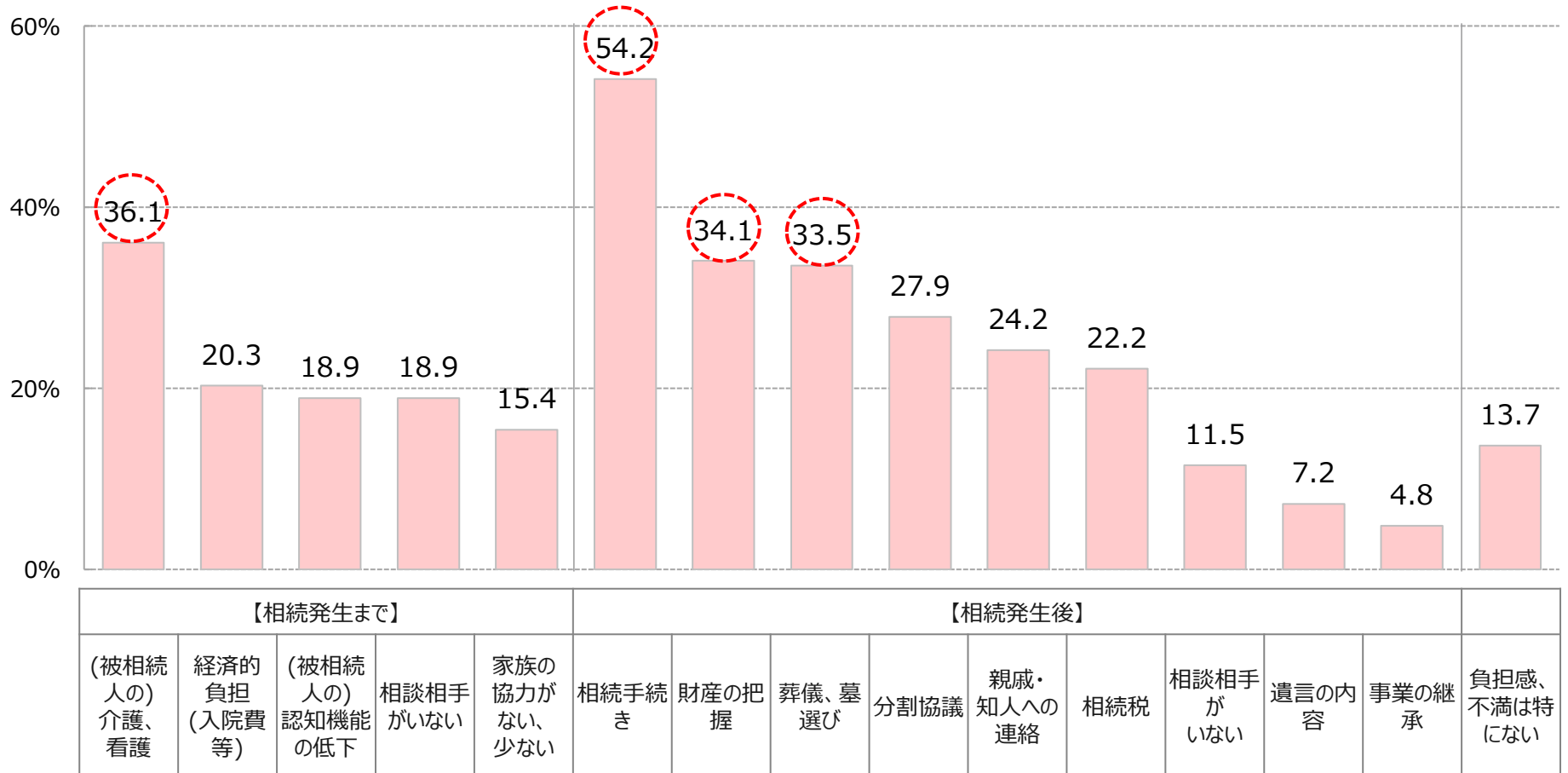
3.相続を受ける立場での意識調査(相続経験者)

相続経験時の負担・不満は、手続き、介護、財産把握／葬儀・墓選びの順に高い。

これまでに相続を受けたときの負担・不満

※相続経験ありベース

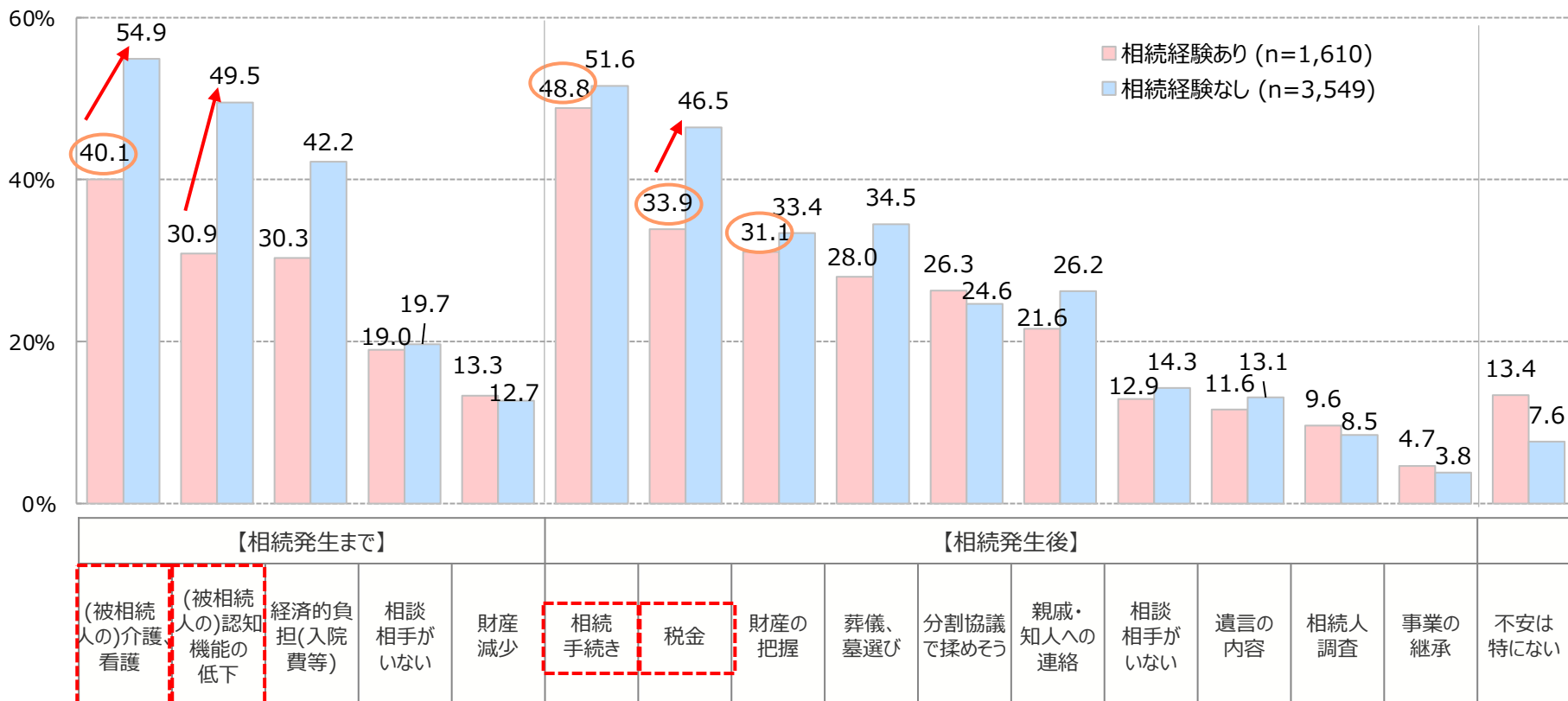
■ 相続経験あり (n=1,095)



3.相続を受ける立場での意識調査(相続経験の有無による比較)

今後相続を受ける際の負担・不安は、相続経験者／未経験者ともに、手続き、介護、税金、認知機能低下が上位。尚、介護、認知機能低下や税金への不安は相続未経験者と経験者の乖離が大きい。また、経験者層が負担・不安と感じているのは、相続手続き、介護・看護・税金・財産把握についてである。

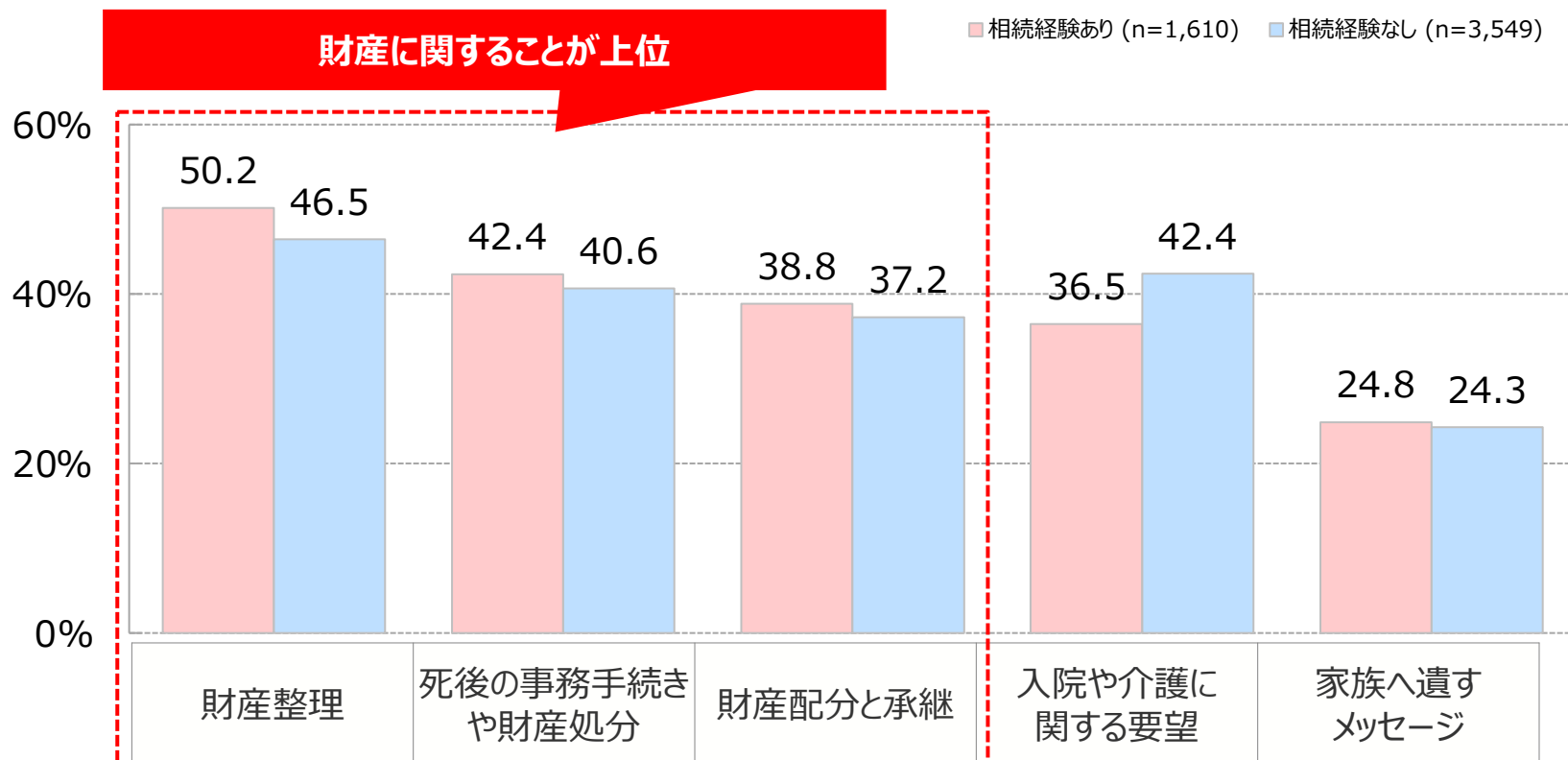
今後相続を受ける際の負担・不安



3.相続を受ける立場での意識調査

事前に親に準備しておいて欲しいこと。財産整理や処分、配分などの財産関連事項が特に高く、ついで入院や介護の要望、家族へのメッセージと続く。

事前に親に準備しておいてほしいこと_TOP5



3.相続を受ける立場での意識調査

相続にあたり、「なるべく自力で手続きを進める」は相続経験者で約55%、未経験者では約46%とやや少なくなる。また、男性の方が自力志向が高い傾向がある（単純平均で7ポイント）。

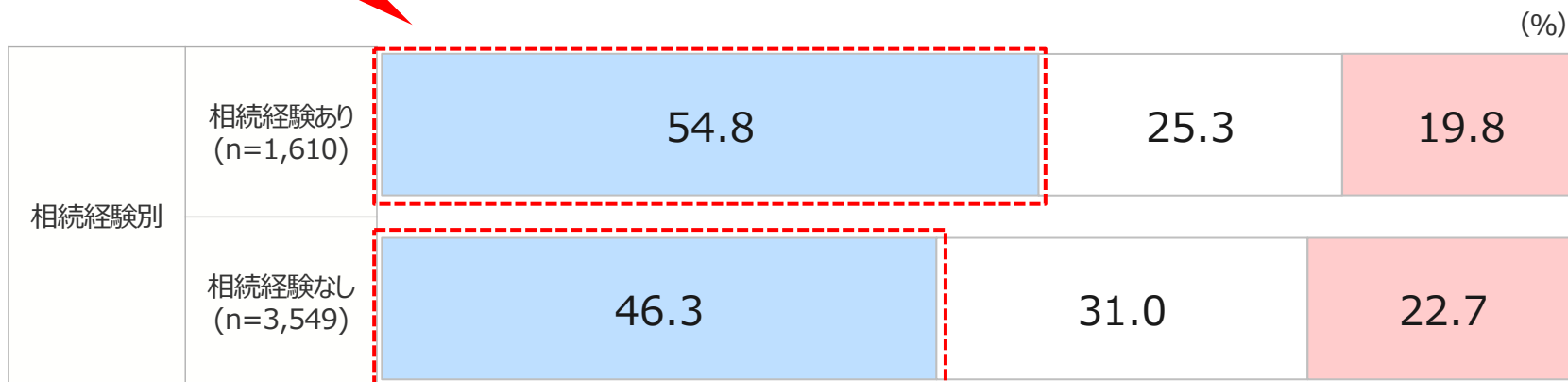
相続への関わり方への意識

男性は年代が上がるほど、自力で手続き派が増える
40代（45%）に比べ70代（57%）と高い

■ 相続についてわからないことを積極的に調べるなどし、なるべく自力で相続手続きを進めると思う

□ どちらともいえない

■ 相続のことはよくわからないので、他の人(兄弟、親戚、専門家など)に任せられるものは任せると思う



3.相続を受ける立場での意識調査

遺留分の侵害の請求者は、相続経験者で16%と未経験者より2ポイント以上高い傾向あり。

明確に請求しないは、経験の有りに違いはあるが、33%～38%程度となっている。

また、「考えが理解できれば請求しない」は、女性の比率（20.0%）が男性（16.7%）よりも3ポイント以上高くなっている。

遺留分侵害に対する対応の仕方

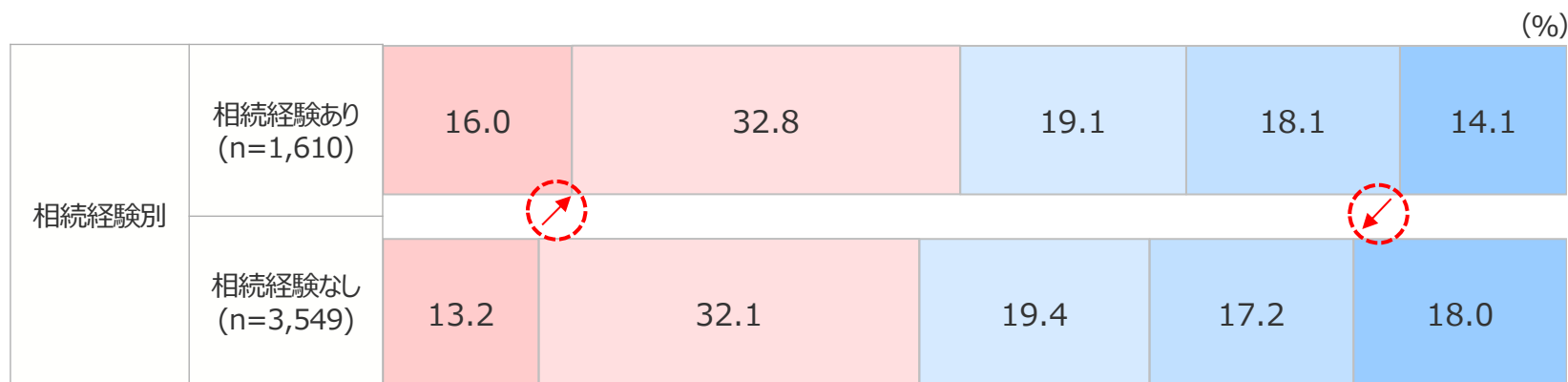
■ 請求する
(法律で認められているから)

■ 請求するかはその時の自分の状況で変わる

■ 被相続人の意向なので、請求しない

■ 被相続人の考えが理解できれば、請求しない

■ 争いたくないので、請求しない

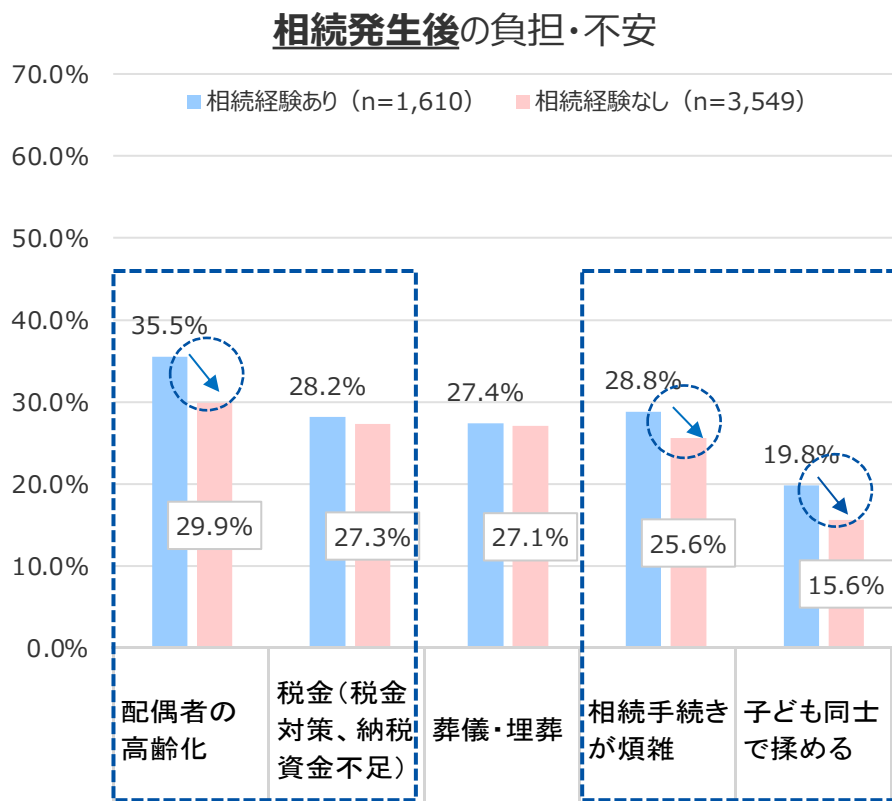
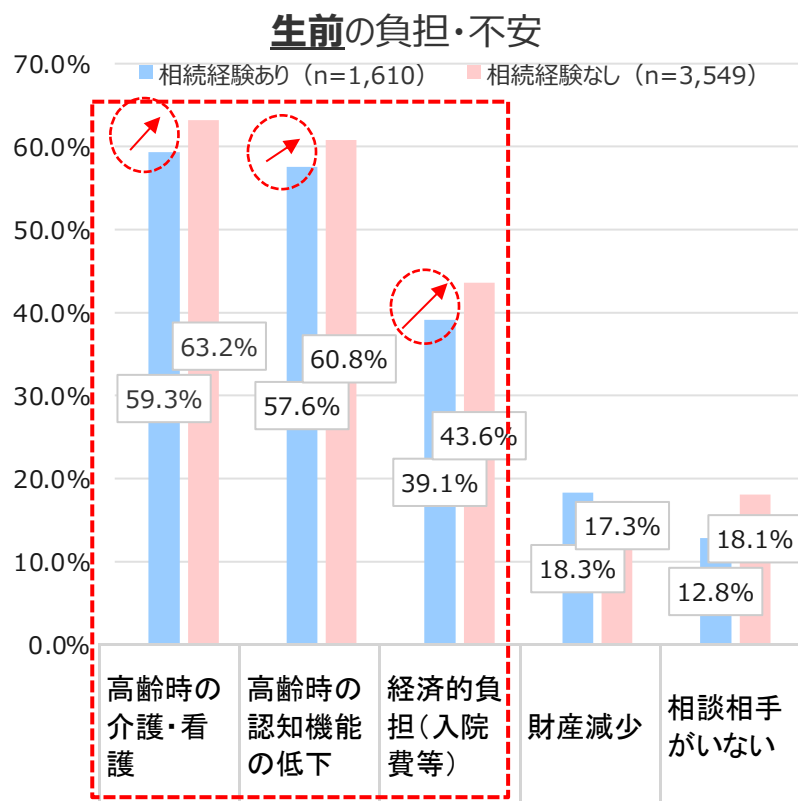


財産を渡す立場からの考察

4.財産を渡す立場での意識調査

財産を渡す立場で見たときの負担・不安点は、**自身の介護、認知機能低下、経済的負担がTOP3**。相続経験の有無により、生前に関する懸念は相続経験なし、相続発生後に関する懸念は、相続経験ありの方が比較的高い傾向がある。

財産を渡す立場で見たときの負担・不安

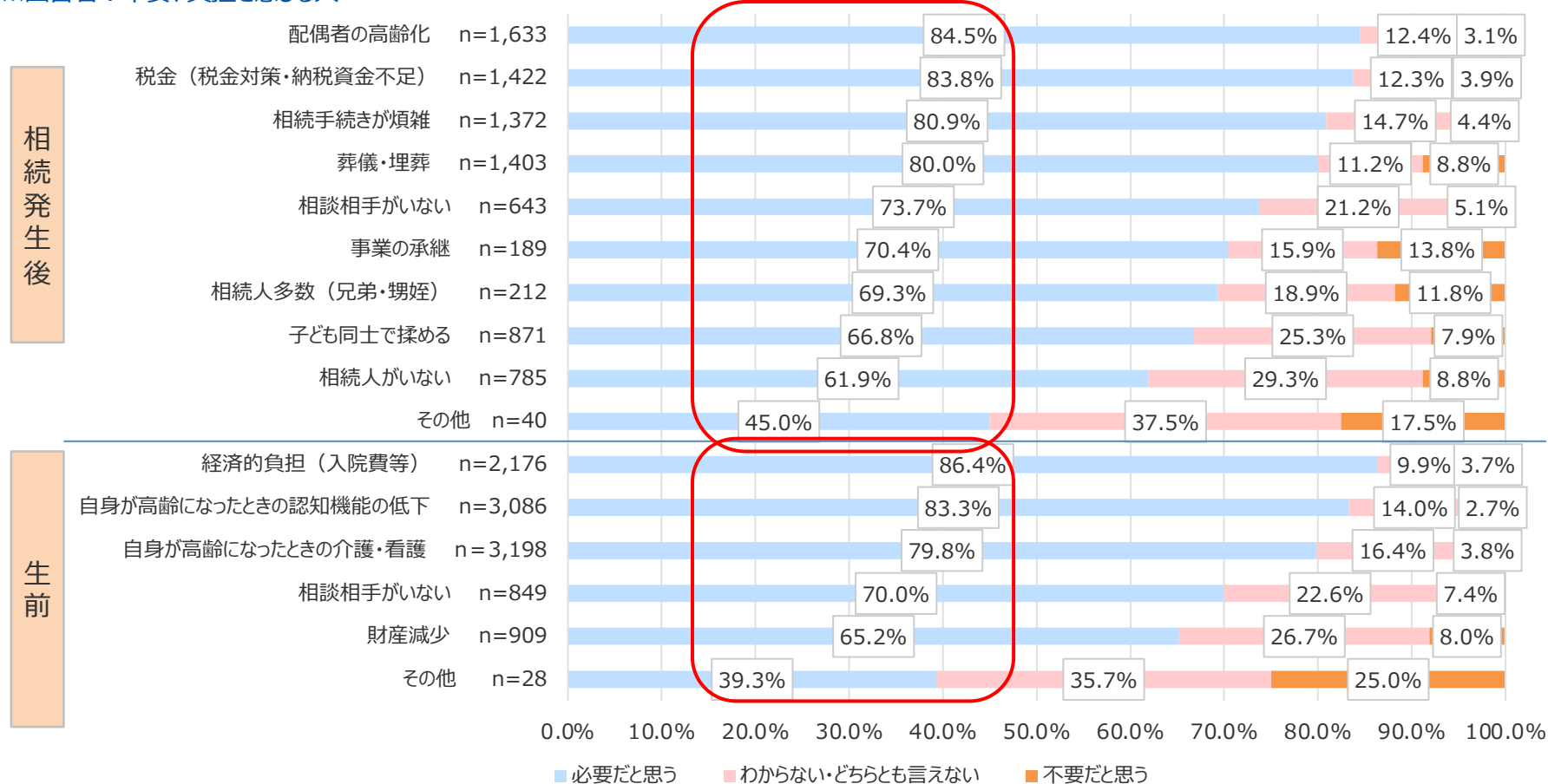


4.財産を渡す立場での意識調査

財産を渡す立場で見たときに不安・負担を感じる多くの人は、終活の必要性も感じている人が多い。全体単純平均で見ると、男性（71.0%）よりも女性（76.9%）の方が約6ポイント高い数値が出ている。

今後ご自身が相続をする（財産を渡す）立場になる場合、終活等の対応が必要

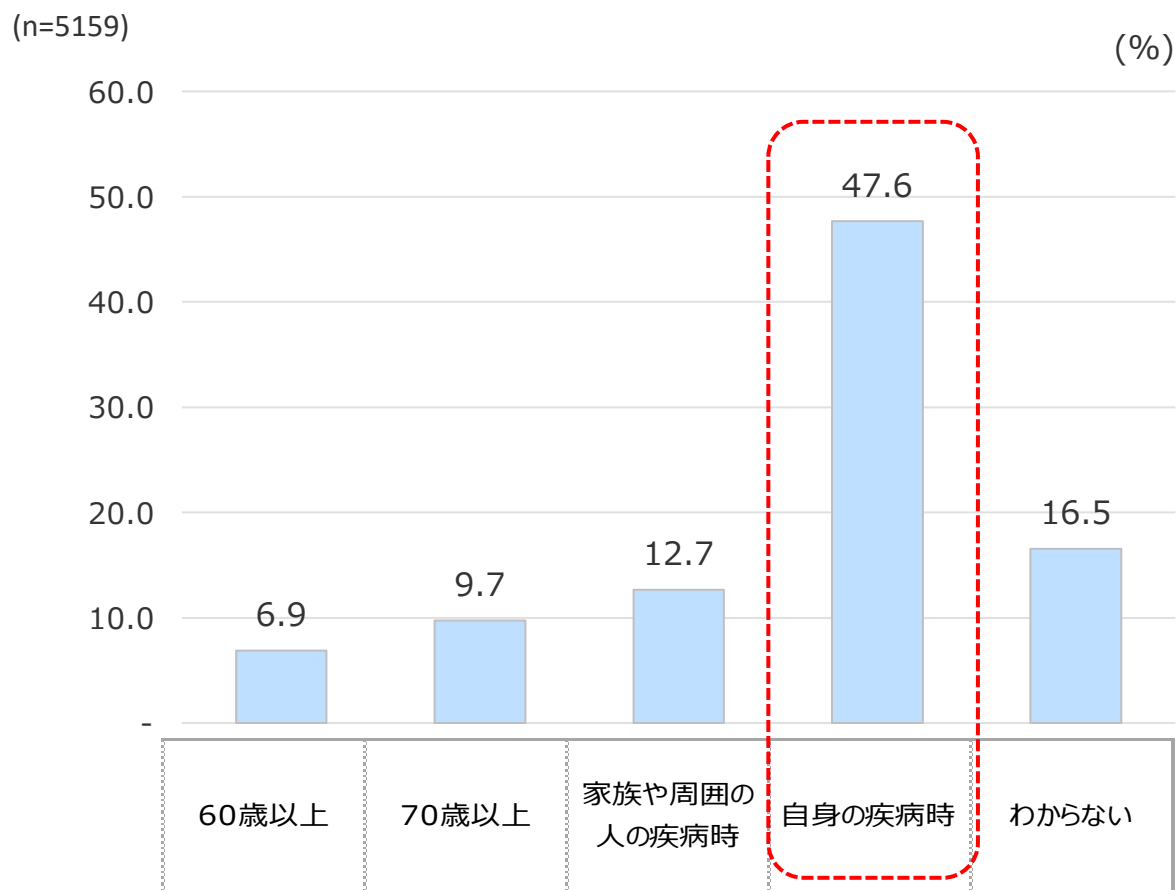
※回答者：不安、負担を感じる人



4.財産を渡す立場での意識調査

終活は、「自身の疾病を機に検討」が、突出して高い傾向がみられる。
その意味で、年齢という考え方というよりも必要に応じてとの考えが多いと考えられる。

終活を始めるタイミング



4.財産を渡す立場での意識調査

財産管理を任せたい相手は、身内が圧倒的に多く、高齢になるほど数値は高い。また、相続経験なしで、子どものいる層（69.8%）と子どものいない層（46.5%）では、子どものいる層にその傾向が顕著にでている。

財産管理を任せたい相手



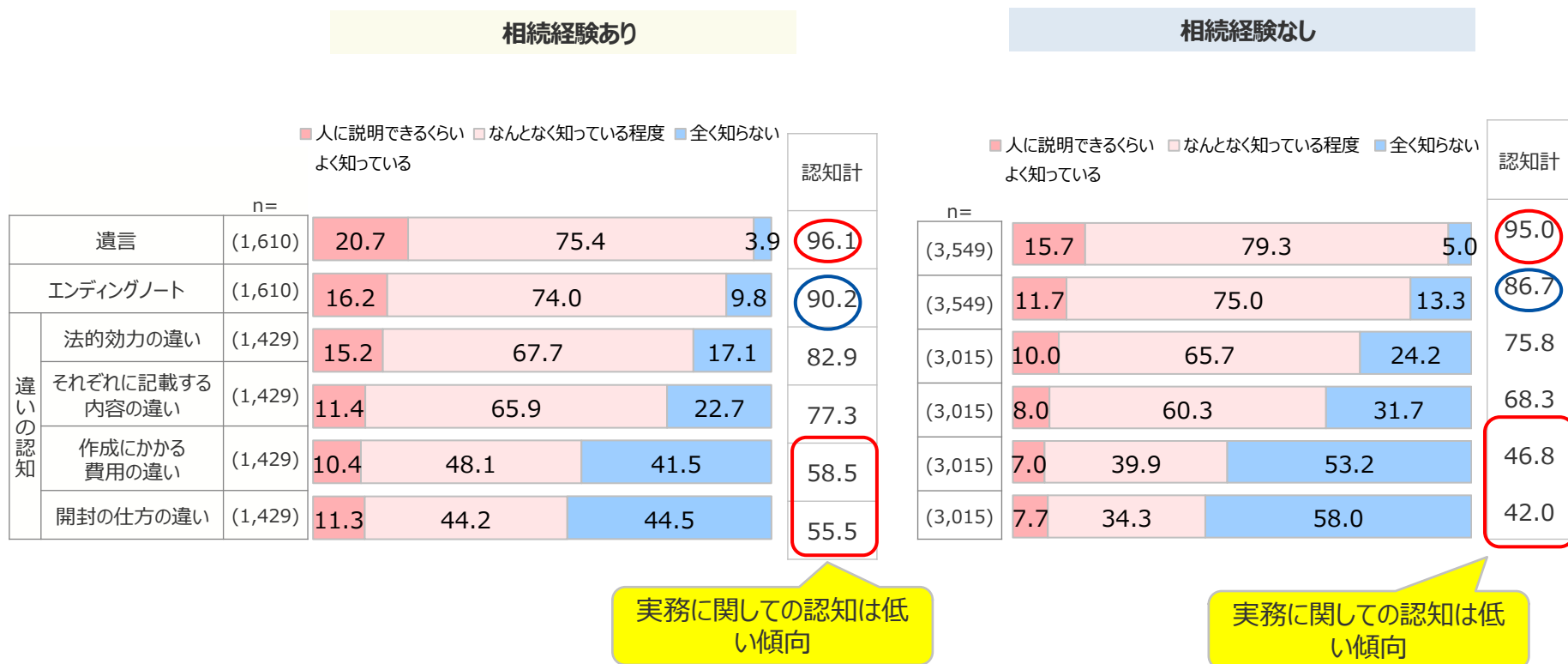
(※5%以上の項目)

相続未経験で子どものいない層の40-50代では、財産管理を専門家に任せたい人がやや多めの傾向がある。

5.遺言/エンディングノートに対する理解と利用

相続経験者／未経験者ともに、遺言の認知は9割超、エンディングノートも認知は9割前後。
但し、遺言もエンディングノートも、「人に説明できるくらいよく知っている」人は一部に留まる。
 また、エンディングノートに関しては、全く知らない比率は、女性（5.8%）よりも男性（15.1%）の方が高くなっている。

遺言/エンディングノートに対する理解



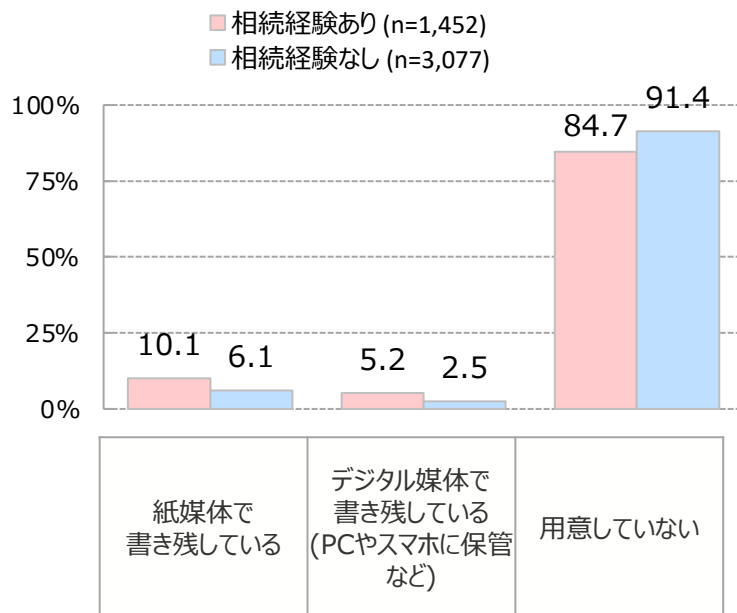
5.遺言 / エンディングノートに対する理解と利用

認知者のうち、エンディングノートを準備している人の割合は、**相続経験者で約15%、未経験者で約9%**。但し、**70代以上は男女ともに、約20%が準備をしている。**

準備していない理由は「きっかけがない」が最多で4割前後となっている。

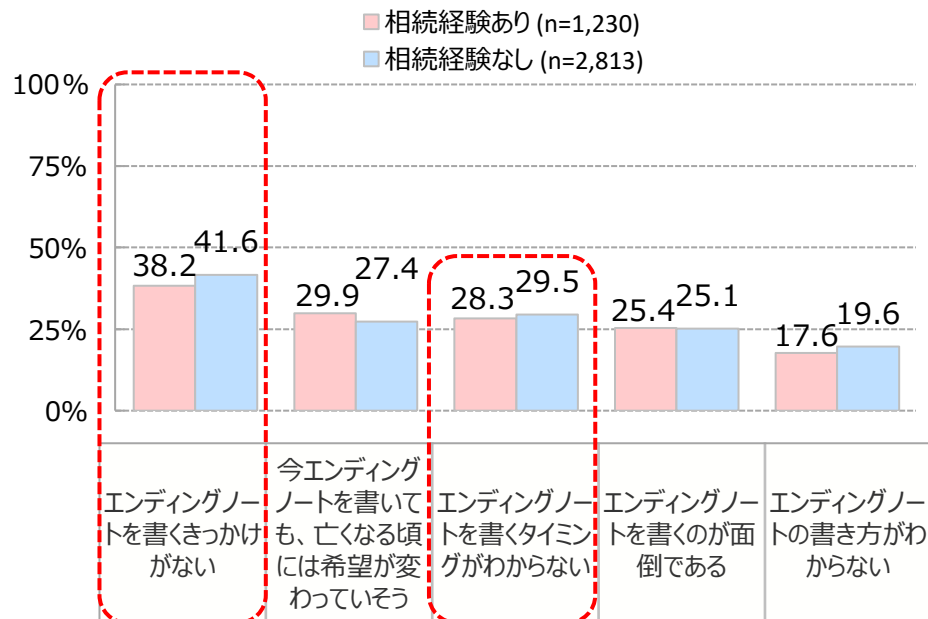
エンディングノート準備状況

※エンディングノート認知者ベース



エンディングノートを準備していない理由_TOP5

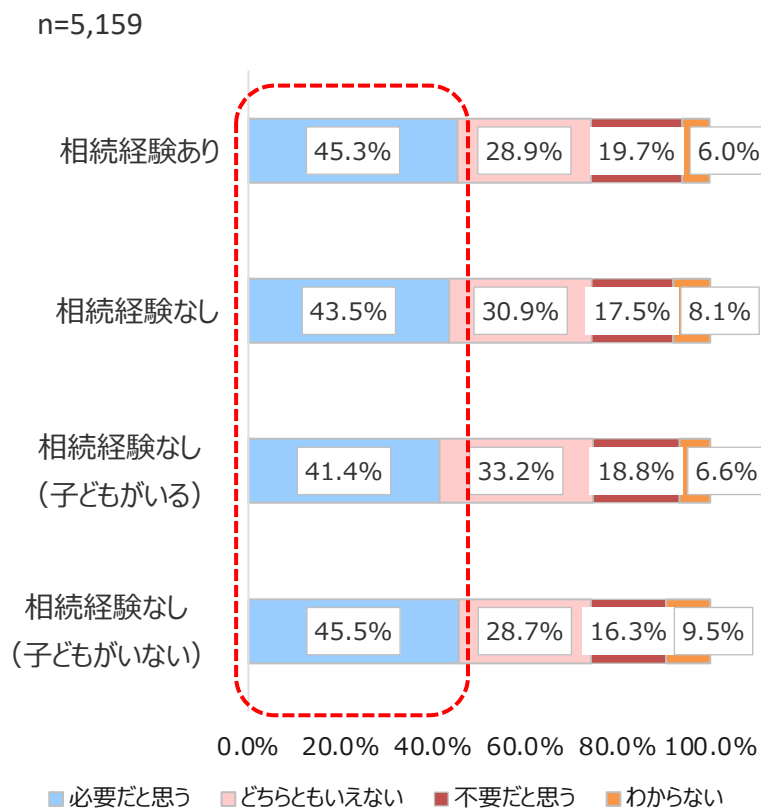
※エンディングノートを用意していない人ベース



6.遺言に対する意識調査

遺言が必要だと感じる人は、相続経験有無や子供の有無に関わらず4割強~4割半ば程度。争いの原因になりそうなことを極力なくしておきたい、という思いが1番の理由である。また、子供がいない人では、配偶者の兄弟や甥姪との話合いが大変というのも大きな理由となる。

遺言の必要性に対する意識



遺言が必要と感じる理由

※遺言が必要だと思う人ベース n=2,274

	極力なくしておきたい	争いや揉め事の原因になりそうなことは	心配なため	夫婦とも年をとった場合に手続できなくなるのが	円満に相続手続きが	遺言があったことで、	親のとき苦労した(争い、相続手続き、相続税)	子どもがおらず、配偶者の兄弟や甥姪と話し合うのが大変なため	世話になる人に渡したい	将来残った資産を	独身なので、	親も遺言を遺していた
相続経験あり	53.4%	36.3%	27.0%	15.9%	12.7%	10.0%	9.6%					
相続経験なし	50.0%	33.5%	20.5%	4.5%	19.9%	15.7%	2.8%					
相続経験なし(子どもがいる)	59.2%	43.7%	23.2%	5.5%	1.0%	3.9%						
相続経験なし(子どもがいない)	41.9%	24.6%	18.0%	3.5%	37.5%	28.6%	1.9%					

6.遺言に対する意識調査

遺言が必要だと感じる人が、専門家にサポートして欲しい内容は、残った家族に相続手続き負担をかけさせない方法が最多、次いで税金のことが高い。

専門家のサポートが必要ないと感じる人が、その理由としてあげているのは、「揉める要素がないから」が一番高く、次いで費用負担に関してとなっています。また、相続経験ありの場合、遺言書の書き方を知っていることを理由として必要としない比率も同様に高くなっている。

専門家にサポートしてほしいこと

※遺言が必要だと思う人ベース n=2,274

	残った家族に相続手続き負担をかけさせない方法	税金のこと	自宅などの分けにくい財産について	生前の贈与なども含めた相続人が受けとる財産バランス	自分の希望の配分とするための書き方	相談したいこと／サポートして欲しいことは特にない
相続経験あり	53.0%	38.4%	34.0%	30.8%	27.0%	12.2%
相続経験なし	54.3%	43.7%	34.1%	28.1%	29.9%	11.8%
相続経験なし (子どもがいる)	59.9%	45.4%	38.0%	33.5%	26.0%	10.5%
相続経験なし (子どもがいない)	49.3%	42.1%	30.6%	23.4%	33.3%	12.9%

専門家に相談したいと思わない理由

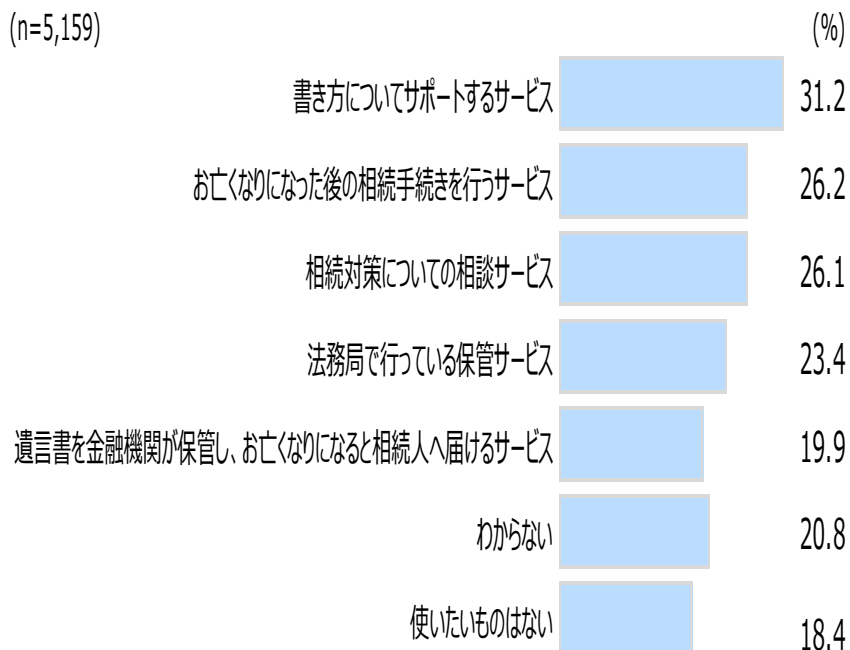
※遺言作成のサポートが必要ない人ベースn=271

	揉める要素がないから	遺言の書き方を知っているから	費用が高いから／費用を掛けたくないから	既に遺言書に書くことを決めていているから	既に遺言書を自分で作成済だから	特に理由はない
相続経験あり	27.0%	22.5%	22.5%	14.6%	12.4%	21.3%
相続経験なし	28.6%	12.6%	20.9%	8.8%	3.3%	35.7%
相続経験なし (子どもがいる)	27.6%	13.2%	19.7%	11.8%	2.6%	31.6%
相続経験なし (子どもがいない)	29.2%	12.3%	21.7%	6.6%	3.8%	38.7%

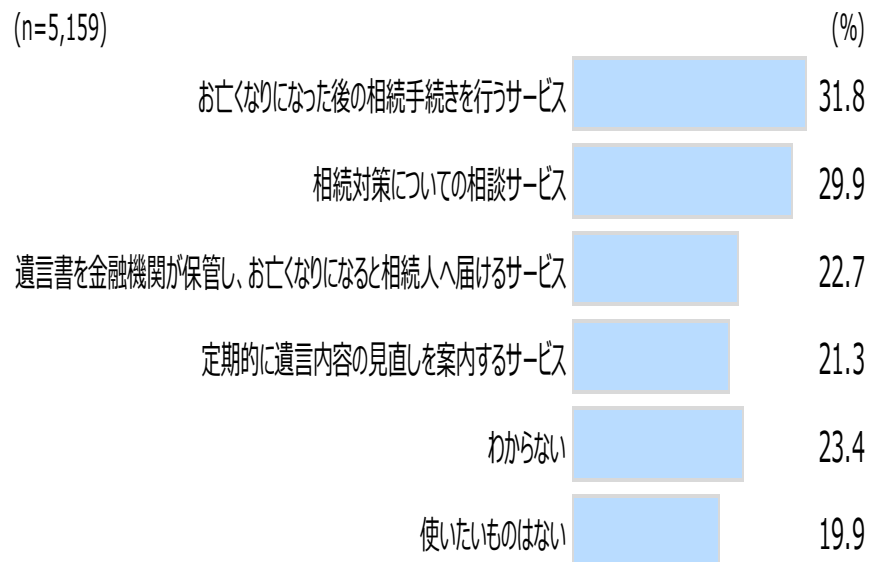
7.遺言における専門家サポートニーズ

自筆証書遺言作成時に使いたいサービスは、書き方のサポート、相続手続き実施、相続対策相談の順に高い。公正証書遺言作成時に使いたいサービスでは、相続手続き実施と相続対策相談の2つが特に高いが、金融機関での遺言書保管も2割強が意向を示す。

自筆証書遺言作成時に使いたいサービス



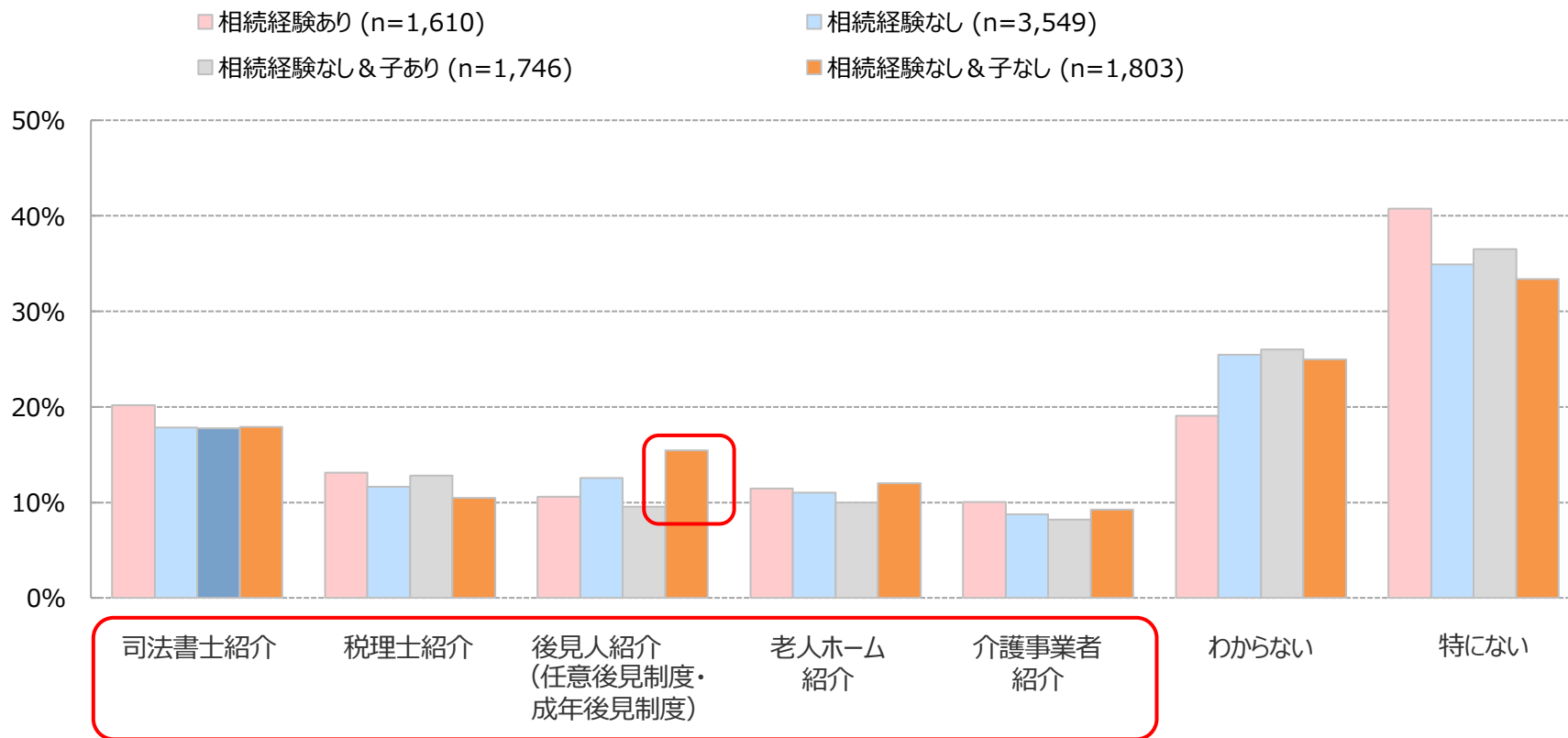
公正証書遺言作成時に使いたいサービス



7.遺言における専門家サポートニーズ

遺言作成時に紹介して欲しいサービスは司法書士紹介が最多だが、いずれも1-2割程度に留まる。
但し、さまざま専門家紹介を希望していることが見てとれる。

遺言作成時に一緒に紹介して欲しいサービス_TOP5



8.自身の財産について

生前寄付の興味層は25%、遺贈の興味層は21%。但し、遺贈興味層のうち遺贈の相談先を知っている人は1割しかおらず、**そもそも遺贈自体が知られていないことが最大の課題**となっている。

遺贈/寄付への興味

(n=5,159)

生前寄付への興味 **25%**

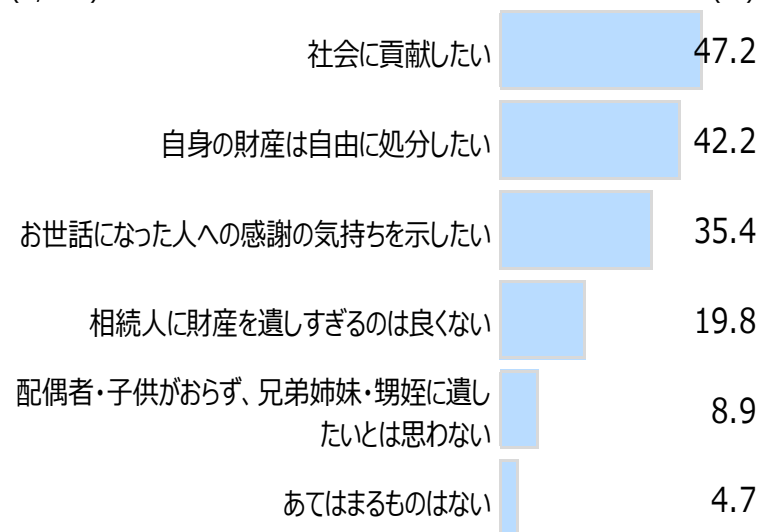
遺贈への興味 **21%**

→但し、遺贈の相談先を知っている人は
わずか**10%**

遺贈に興味関心を持つ理由

(1,058)

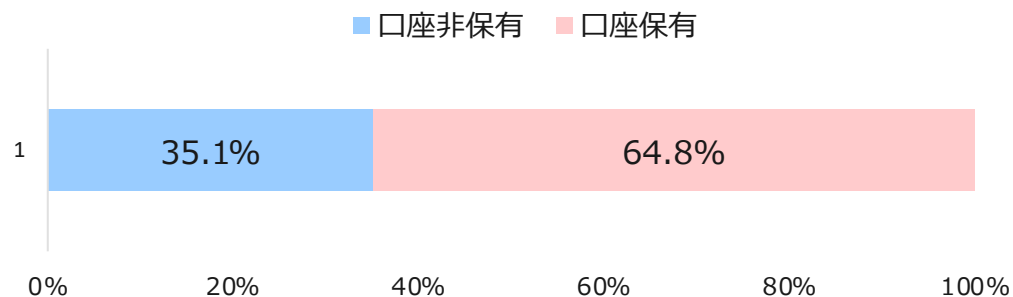
(%)



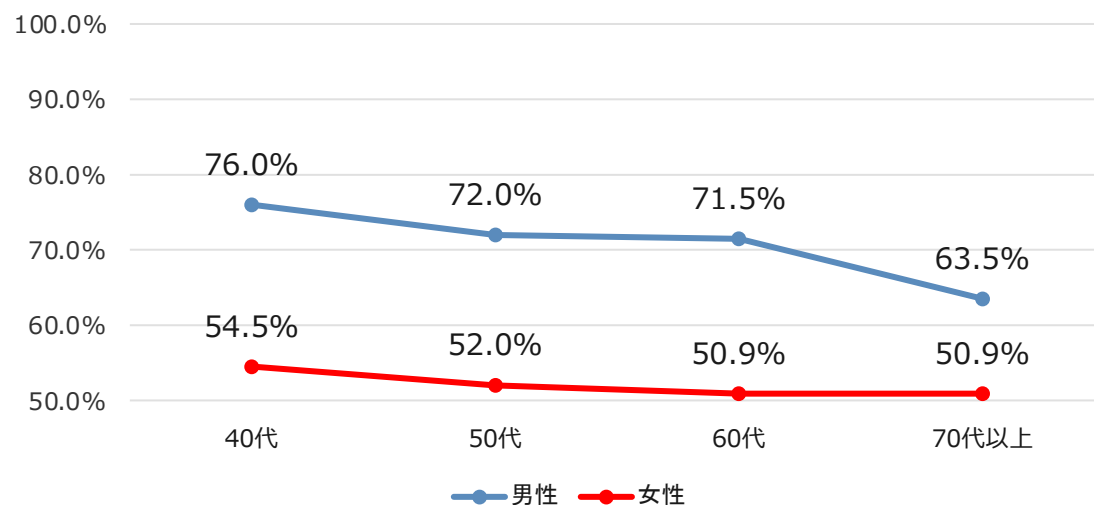
8.自身の財産について

インターネット完結型口座の保有率は**65%**で、70歳以上でも50%以上と高い保有率。

口座保有状況（全体）



口座保有状況（年代・男女別）

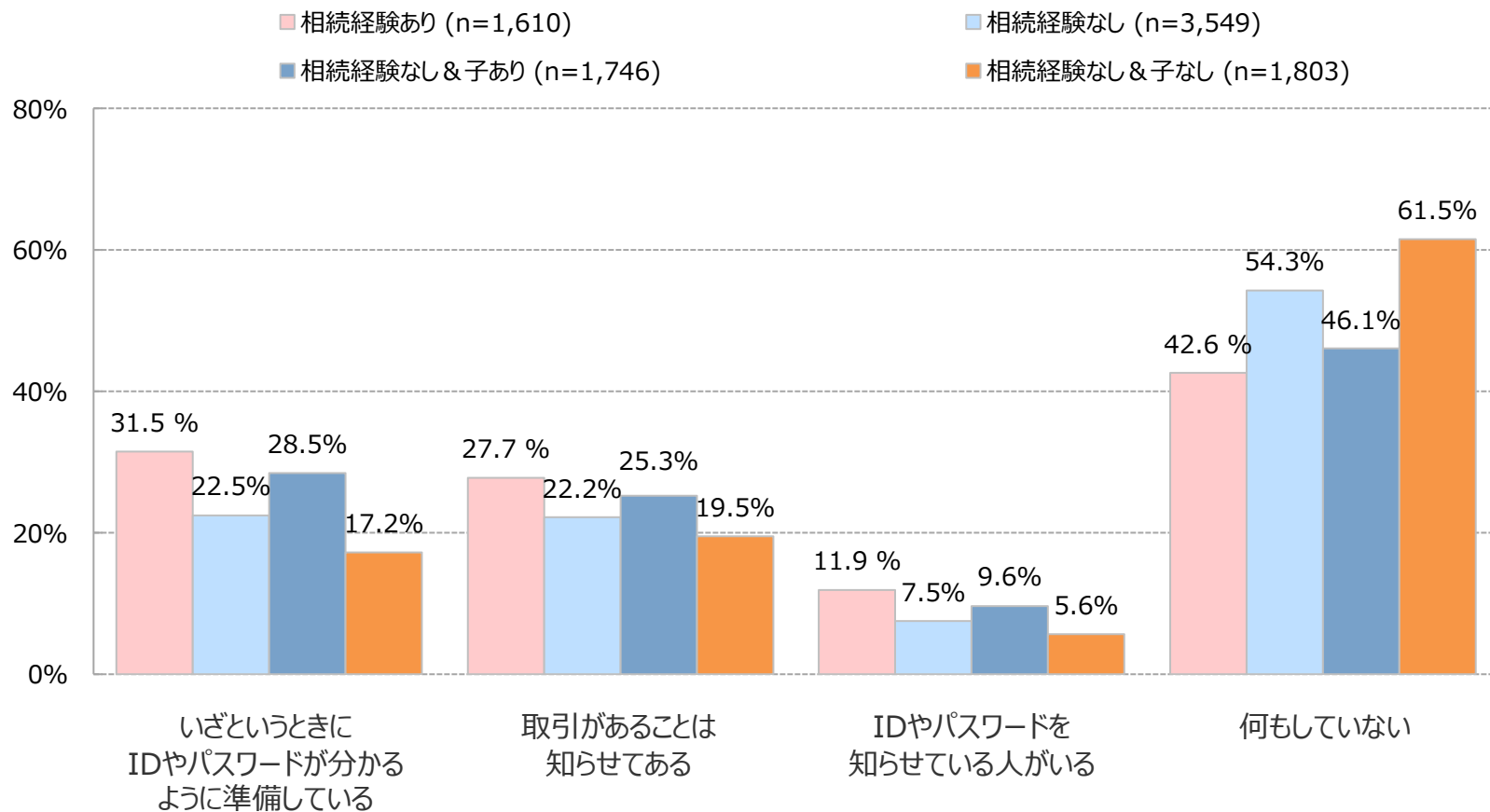


8.自身の財産について

ID・パスワード共有の準備をしている人は、相続経験者で6割弱、未経験者子がない層では4割弱。

インターネット完結型口座の情報共有状況

※口座保有者ベース



- 「MUFG相続研究所」は、三菱UFJ信託銀行が、資産管理・資産承継に関する調査・研究・レポート作成等の業務を対外的に行う際の呼称です。
- 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の業務・商品の利用・勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載の情報は作成時点のものであります。また、本資料は三菱UFJ信託銀行が各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性について保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、三菱UFJ信託銀行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は三菱UFJ信託銀行の著作物であり、著作権法により保護されております。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、三菱UFJ信託銀行までご連絡ください。

本資料に関するお問い合わせ先
三菱UFJ信託銀行 リテール企画推進部
E-mail : mufg_souzoku_post@tr.mufg.jp